

# ニューファミリーシリーズ

## “自動みずとめ”

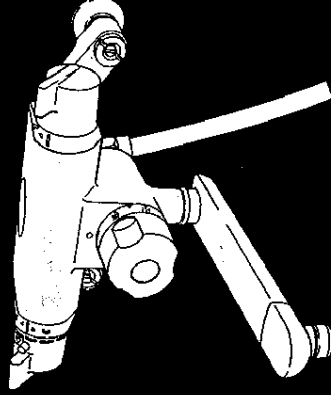
### 住宅用定量止水付

### サーモスタットシャワー金具 ・混合栓

# TOTO

## 取扱説明書

- このたびは、TOTO住宅用定量止水付サーモスタットシャワー金具・混合栓をお求めいただきました。まことにありがとうございます。この説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
- この取扱説明書は、保証書とともに大切に保存しておいてください。



商品のお問合せはTOTOお客様相談室へ



**0120-03-1010**

受付時間9:00～17:30(土・日・祝日を除く)

### もくじ

安全上の注意	1～2
特長・各部のなまえ	3～4
各ハンドルの役目	5
つかいかた	6～7
使用上の注意	7～9
最大設定量の調節のしかた	10～11
温度調節のしかた	12
凍結予防のしかた	12
手入れのしかた	13
ストレーナの掃除	13
故障したときは	14

# 安全のために必ずお守りください

ご使用前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

- この説明書では、機器を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味はつぎのようになっています。

## ⚠ 注意

この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、傷害または、物的損害が発生する可能性がありますを示しています。

- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保存してください。

## ⚠ 注意

- (1)シャワーをお使いになる前に、必ず手で適温かどうかを確かめてください。高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。(シャワー付)
- (2)お使いになる前に、カラン側かシャワー側かを切替ハンドルで確認してから湯をお使いください。  
カラン吐水とシャワー吐水を間違えると、やけどをするおそれがあります。(シャワー付)
- (3)水栓の左側は給湯側のため高温になっています。水栓の表面に直接肌を触れないようにしてください。  
やけどをするおそれがあります。
- (4)熱湯をお使いのときには、カランは高温になっています。  
直接肌を触れないでください。  
やけどをするおそれがあります。(カラン付)
- (5)使用後は必ず温度調節ハンドルの目盛を40°C以下に戻しておいてください。  
次に使用すると、いきなり高温の湯を浴び、やけどをするおそれがあります。

- (6)高温の湯をお使いの後は、水栓内に高温の湯が残らないようしばらく水を流してください。

次に使用すると、水栓内に滞留した高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

- (7)ハンドルの温度位置を確かめた後、吐水してください。  
高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

- (8)温度調節ハンドルを急に回すと、温度が急上昇することがありますので、温度調節ハンドルはゆっくり回してください。  
やけどをするおそれがあります。

- (9)シャワー使用後は、切替ハンドルを必ずカラン側に切替えてください。  
切替ハンドルがシャワー側になっているのを気付かず湯を出すと、やけどをするおそれがあります。(切替弁付)

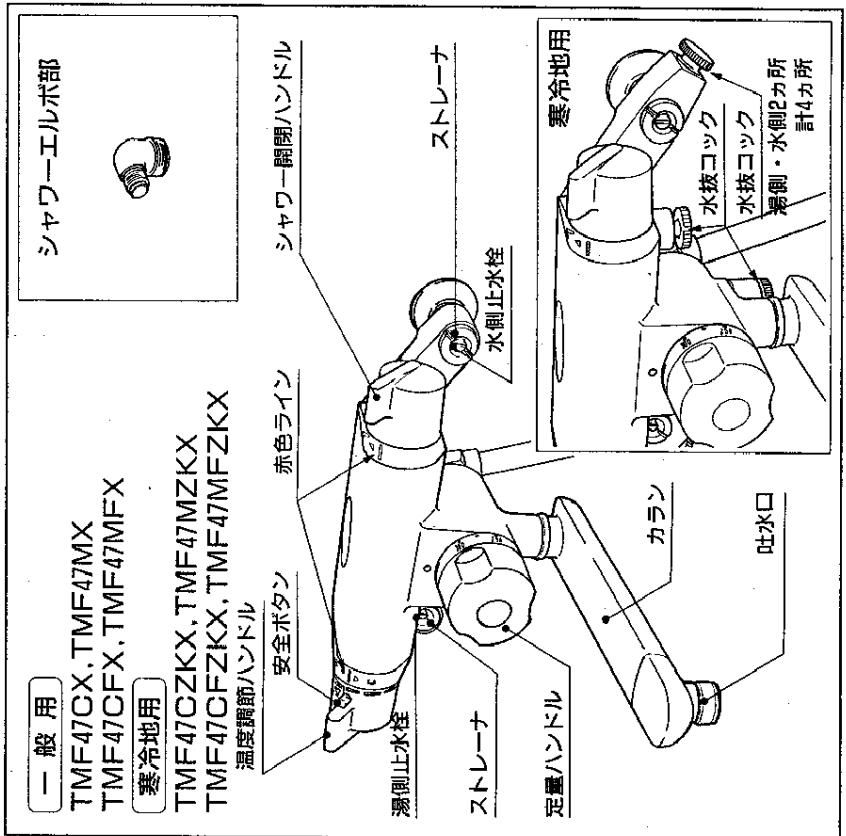
- (10)凍結が予想される際は、配管の水抜操作と水栓の水抜操作を同時に行ってください。  
凍結破損で漏水し、家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。(寒冷地用)

- (11)ハンドルを急閉止させると、配管から漏水を起こすおそれがありますので、ゆっくり操作してください。  
漏水で家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

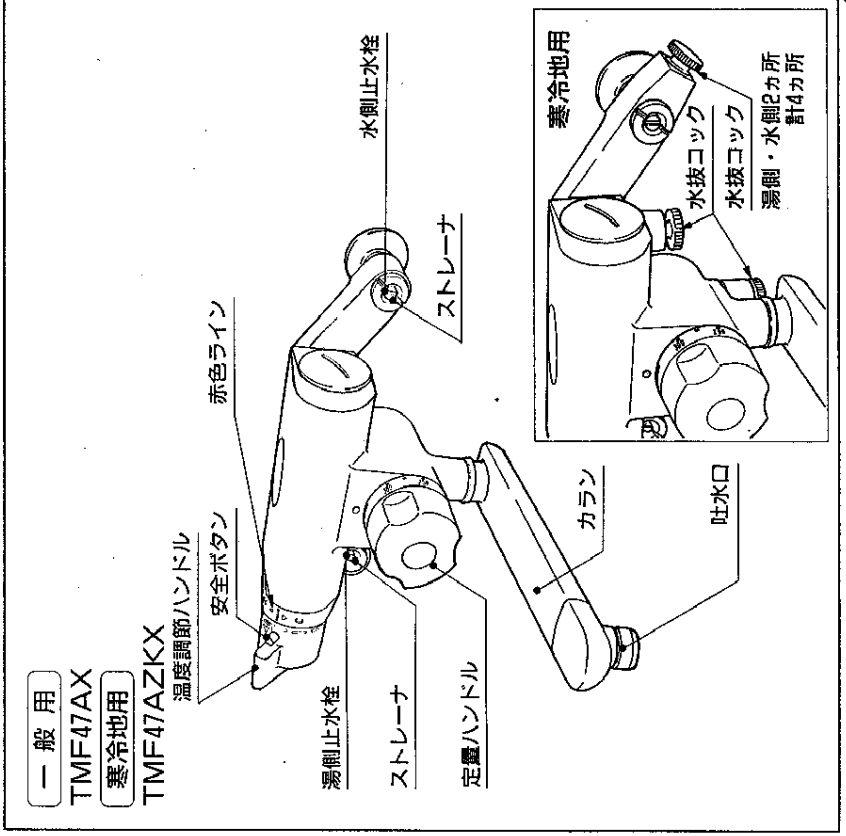
# 特長・各部のなまえ

1. 希望湯量を設定すれば浴槽に湯をためる間、何度も湯量を気にする必要がなく、湯をあふれさせると心配もありませんので節水省エネに役立ちます。
2. サーモスタットのはたらきで混合水の温度をほぼ一定に自動調整しますので、使用中に給水・給湯圧力が変わってもほとんど温度変化はありません。
3. 温度調節ハンドルの操作ひとつでお望みの温度に変えられます。
4. 配管中の砂やごみが機能部に入らないよう、ストレーナを設けています。

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

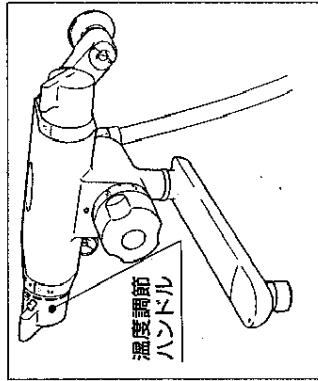


5. 湯量の制御は時間だけでなく、実際に流れる湯の量で制御する機構のため、水圧の変動で湯量が変わることがほとんどありません。
6. 浴槽の大きさに合わせて必要とする湯量以上吐水しないよう、最大設定量の調節ができます。
7. 温度調節ハンドルは安全ボタン付ですので、誤って熱湯を出すことがありません。また、クリック感により、高温吐水をお知らせする機構を設けています。
8. 圧力調整や内部の分解・清掃に便利な、止水栓を設けています。
9. 寒冷地用は器具内の水抜きができる水抜コックを設けています。



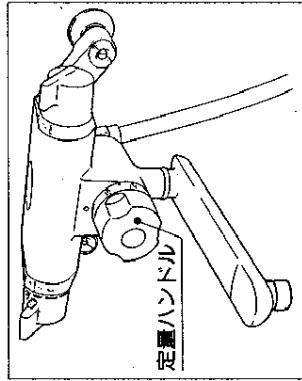
# 各ハンドルの役目

## 1. 温度調節ハンドル



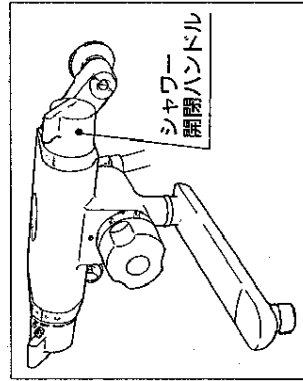
吐水温度を変えるときに使用します。サーモスタット付ですので、調節後は吐水温度がほぼ一定になるように自動調整されます。なお、このハンドルで湯水を止めることはできません。

## 2. 定量ハンドル



浴槽に湯をためる際、自動止水させるときに使用します。希望湯量の目盛に設定すれば、その量だけ吐水した後自動的に止水します。

## 3. シャワー開閉ハンドル(シャワー金具の場合)



シャワー吐水させるときに使用します。

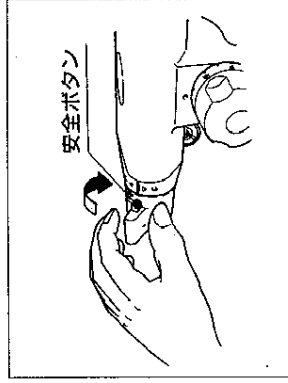
# つかいかた

## 1. 温度調節



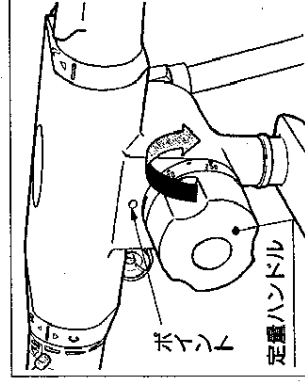
温度調節ハンドルを回してお好みの湯温を赤色ラインに合わせてください。目盛“40”は湯温を示す目安としてください。

## 2. 安全ボタン



温度調節ハンドルには、誤まって熱湯を出さないように安全ボタンが付いています。ハンドルは目盛“40”付近でロックされますので、これより高温で吐水したいときは安全ボタンを押して回してください。なお、安全ボタンを押して使用したときは、ハンドル目盛を必ず“40”以下に戻しておいてください。

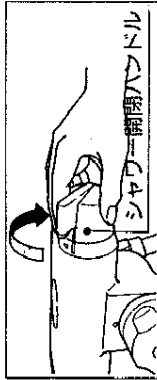
## 3. 吐水と止水



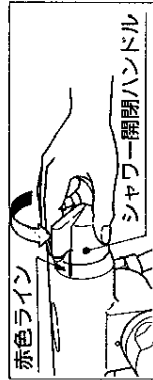
(a)カラン吐水  
定量ハンドルを矢印方向に回し、ご希望の目盛を本体のポイントに合わせてください。10以下の目盛に設定するときは、一度「」印以上回してから戻して設定してください。途中で湯を止めたいときは、定量ハンドルを矢印と反対方向へ止まるまで回してください。

※ハンドルの数値がおよその湯量を示します。(例：150=150L)  
設定位置については一度湯をためてみて、お取付の浴槽に合った湯量を確認してください。

(b)シャワー吐水(シャワー金具の場合)  
シャワー開閉ハンドルを後へ回すとシャワーから吐水します。後へいっぱい回すと、吐水量が最大になります。

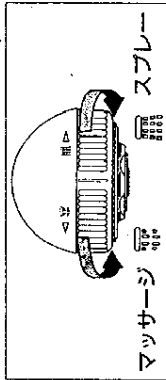


吐水を止めたいときは、シャワー開閉ハンドルを手前にいっぱい回してください。



#### 4. シャワーの切替方法 (TMF47MX, TMF47MFX, TMF47MZKX, TMF47MFZKXの場合)

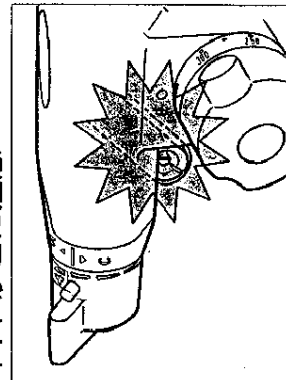
- (a) マッサージ吐水  
切替リングを左へ回すと、  
マッサージ(断続)吐水します。
- (b) スプレー吐水  
切替リングを右へ回すと、  
スプレー(連続)吐水します。



### 使用上の注意

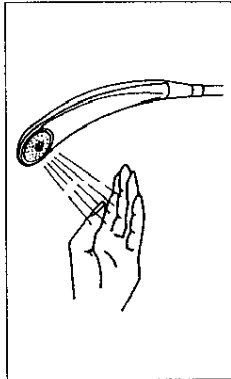
熱湯を使用しますので、やけどなどの事故がないよう、必ず次の注意事項を守ってください。

#### 1. やけどに注意



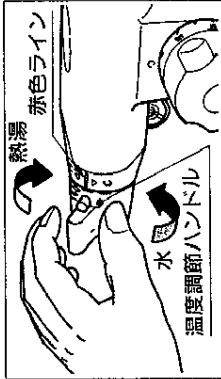
湯側止水栓部は給湯側のため、高温になっています。止水栓部に直接肌をふれないようご注意ください。また、高温で吐水させた後はしばらく水を出し、高温の残水を流しておいてください。  
高温吐水中は、金具の表面が熱くなりますので、直接肌をふれないようご注意ください。

#### 2. 湯温を確かめる



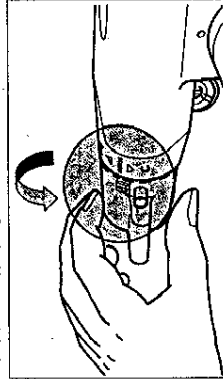
シャワーを使用するときは、一度手で湯温を確かめてください。

#### 3. 温度調節ハンドルはゆっくりと回す



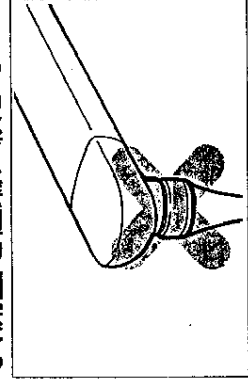
温度調節ハンドルを急に回すと温度が上がり過ぎたり下がりが過ぎたりすることがありますので、ゆっくりと回してください。

#### 4. 温度調節ハンドルは“40”以下に戻す



熱湯を使用した後、次に使用するときいざなり熱湯を浴びないように、必ず温度調節ハンドルを“40”以下に戻しておいてください。

#### 5. 流量を極端に絞らない



流量は止水栓で調節できますが、あまり極端に絞ると精度が悪くなり自動止水しないことがありますので、例えば目盛150(約150L)のとき、少なくとも30分以内で止水する程度の流量でご使用ください。

# 最大設定量の調節のしかた

この器具は目盛300（約300L）まで設定できますが、浴槽の適量以上、定量ハンドルが回らないように最大設定量の調節をすることができます。最大設定量の調節をする場合は、次の要領で調節してください。なお、工場出荷時は目盛を250に設定しています。

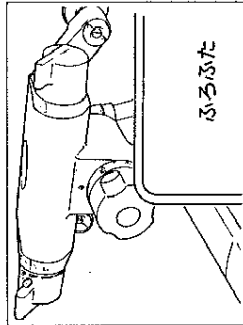
## 6. 120以下に設定するときは、C印以上回してから設定する

湯量を120以下に設定するときは、必ず定量ハンドルをC印以上回してからご希望の目盛に戻して台せてください。（そのまま120以下の目盛に合せますと、自動止水しないことがあります。）



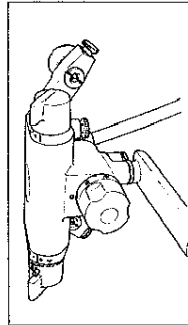
## 7. 自動吐水時は定量ハンドルの自動回転を妨げない

自動吐水時は定量ハンドルがゆくりと自動回転しますので、その動きを妨げないようにしてください。動きを妨げると、湯量が多くなったり自動止水しなくなります。（ふるふるなどが定量ハンドルにあたららないようにしてください。）



## 8. 凍結すると少しの間吐水しません（寒冷地用の場合）

凍結した場合、水抜きを行っていてもストレーナの表面に付着した水滴が凍り、通水後も少しの間吐水しない場合がありますので、そのときはめるま湯であたためてください。

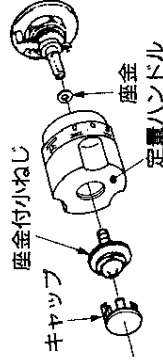


## 給湯機が瞬間型の場合は次の点にご注意ください。

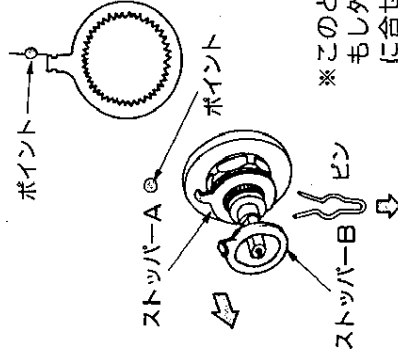
1. 吐水量が少ないと給湯機が着火しないことがありますので、ハンドルはできるだけ全開で使用ください。
2. 給水圧力が高く、吐水量が多すぎると吐水量が多い場合は、シャワー開閉ハンドルで調節を行ってください。
3. 混合水栓から吐水する温度より、10℃以上高い温水を供給するよう給湯機側の温度を設定してください。
4. 次の場合は、給湯機が着火しにくくなる場合があります。その場合は、給湯機の設定温度（能力切替式の場合は能力）を少し下げてください。

・給水圧力が低いとき ・給水温度が高いとき

1. 水側・湯側の止水栓を閉め、定量ハンドルの目盛「100」をポイントに合わせて、キャップ・小ねじを外し、定量ハンドル、座金を外す。ポイント

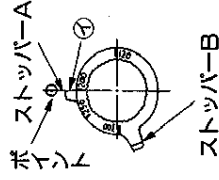


2. ピンを抜いて、ストップバーを外す。



3. ストップバーBを適量にセットする。ストップバーBの数字はおよその湯量（L）を示します。数字は50単位になっていきますが10単位の設定が可能です。下図の設定が可能です。ストップバーBの数字を合せてください。下図は約200Lに合せた場合を示します。

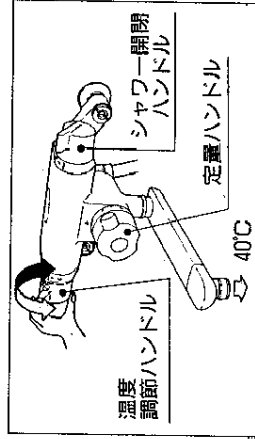
注) ストップバーBを120以下にセットしないください。自動止水しなくなりません。



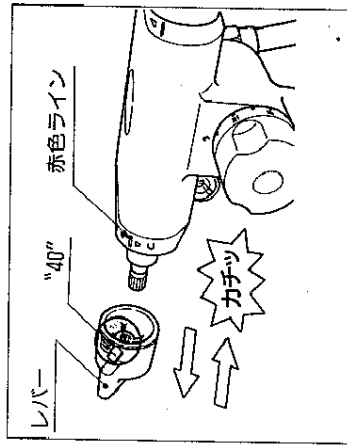
※このときストップバーAは外さないでください。もし外れた場合は、ポイントに対して図のように合せて入れてください。

# 温度調節のしかた

- 目盛どおりの湯が出なくなったりした場合は、次の要領で温度調節をしてください。ただし、調節する前に次の点を確認してください。
- 止水栓は全開しているか。(P.13参照)
- ストレーナーのごみつまりはないか。(P.13参照)
- 十分な温度 (使用する温度より10°C以上高い) の湯がきているか。温度が低い場合は、給湯機の温度設定を上げてください。



定置ハンドルを回してカランより吐水させ、温度調節ハンドルを目盛に関係なく40°Cの湯が出る位置まで回してください。



温度調節ハンドルが回らないように注意してハンドルを抜きとってください。

※ ハンドルははめ込式のため、強く引くと抜けます。抜けない場合は、レバーを傷がつかないように軽くたたいてください。

目盛の"40"の文字とラインを合わせて温度調節ハンドルを"カチッ"と音がするまで押込んでください。

# 凍結予防のしかた

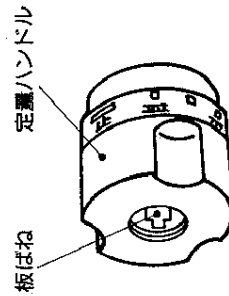
凍結のおそれがある場合は、同梱の「水抜き方法」のラベルにしたがって器具内の水抜きを行ってください。なお、ラベルは器具の近くに貼付けてください。

5. このページ下段に添付している適量ラベルを、設定量の目盛の上に下図のように貼付けてください。



適量ラベルを貼っておくと、ご使用になるとき設定が容易にできます。貼るときは、ハンドル表面の汚れや水分をよく拭取ってください。

4. ストッパーのセットが終了したらピンをはめ、定置ハンドルを取外しと逆の手順で取付けてください。このとき、座金を忘れずと定置ハンドルが回らなくなるご注意ください。また、定置ハンドルをはめ込むとき板ばねが出てくることがあります。そのときはドライバーなどで元どおりに押し込んでください。
- 定置ハンドルの取付が終了したら、水側・湯側の止水栓を開けてください。



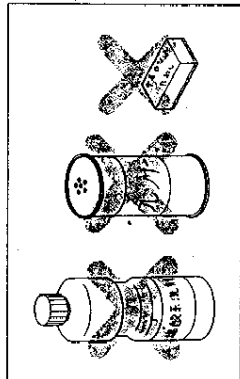
最大設定量の調節をしない場合でも、浴槽に湯をためるとき合わせる目盛の上に適量ラベルを貼っておくと便利です。



適量ラベル

## 手入れのしかた

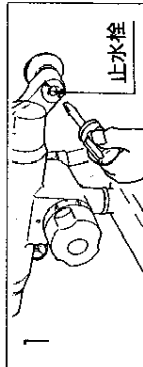
いつまでも美しさを保つために柔らかい布でふき、めっきされたところとはときどきミニシン油やカーワックスなどをごまかせた布でふいてください。ただし樹脂部（ハンドル・シャワーなど）に付着すると光沢を失いますので、付着しないよう十分注意してください。



クレンザー・みがき粉などや粗い粒子を含む洗剤およびナイロンたわしなどは、めっき面を傷つけますので使用しないでください。また酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないでください。万一、誤って使用したときはすぐに水洗いしてください。

## ストレーナの掃除

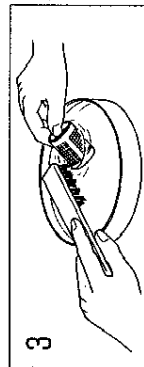
ストレーナが詰まると吐水量が少なくなったり、水または熱湯が出なくなるなど十分な機能が発揮されなくなりますので、ときどき次の要領でストレーナを掃除してください。



マイナスイライバーなどで湯側・水側の止水栓を閉じてください。



付属の閉閉工具を溝に差し込み、ストレーナをゆるめ取出してください。



ストレーナの網目につまったごみをブラシなどで取除いてください。

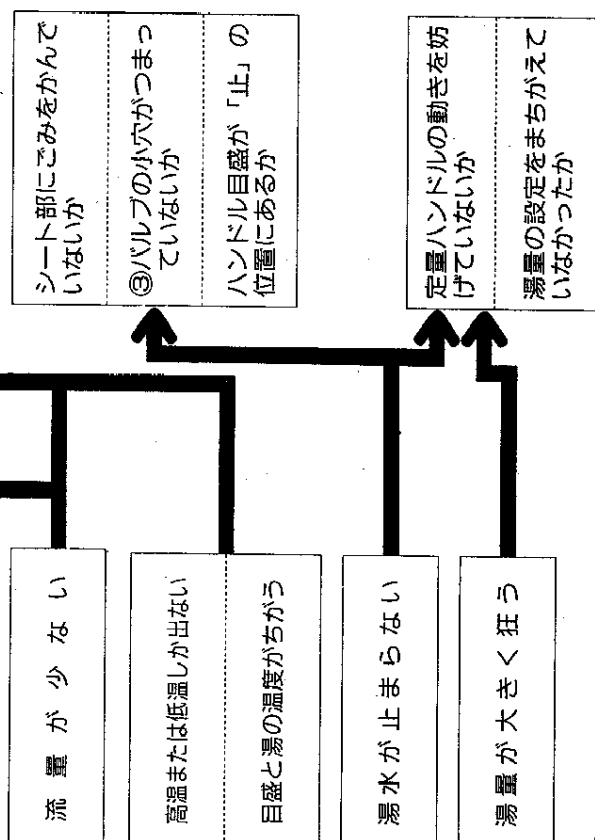
## 故障したときは

故障したときの修理はお取付工事店にご依頼ください。なおご不明な点がございましたらお客様相談室にお問合わせください。

### ● 修理を依頼される前に

簡単な故障はご家庭でも修理できますので、修理を依頼される前に次の点検を行ってください。

### ● 故障内容




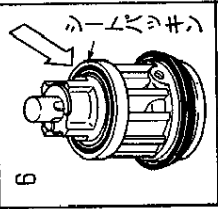
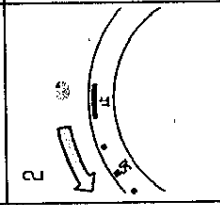
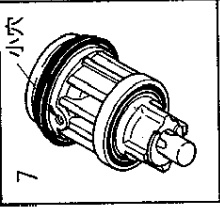
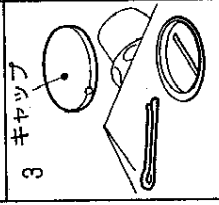
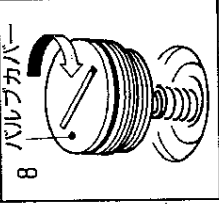
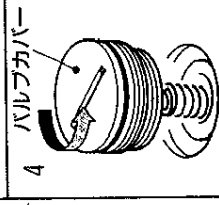
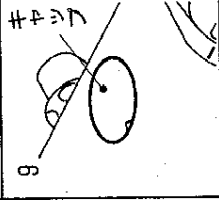
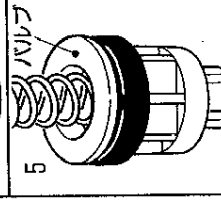

①：ストレーナの掃除→P.13参照

②：温度調節のしかた→P.12参照

③：自動バルブの掃除のしかた→P.15参照



# 自動バルブの掃除のしかた

 <p>1 止水栓</p>	<p>水側・湯側の止水栓を閉め、湯水を止める。</p>	 <p>6 シートパッキン</p>	<p>シートパッキンにごみかみがないか調べる。</p>
 <p>2</p>	<p>定置ハンドルを止まるまで矢印方向へ回す。</p>	 <p>7 小穴</p>	<p>小穴がつまっていたら細い針金で掃除する。(荷札の針金など)</p>
 <p>3 キャップ</p>	<p>本体上面のキャップをピンなどを使って取外す。</p>	 <p>8 バルブカバー</p>	<p>バルブ部を水洗いした後、元どおりにおさめ、バルブカバーを閉める。</p>
 <p>4 バルブカバー</p>	<p>バルブカバーを開ける。</p>	 <p>9 キャップ</p>	<p>本体にキャップを取付ける。この時、切欠部が正面になるように確実にはめ込んでください。</p>
 <p>5 バルブ</p>	<p>バルブ部を取出す。</p>	 <p>10 止水栓</p>	<p>水側・湯側の止水栓を開ける。</p>

●メモされておくと便利です。

購入年月日	購入店名
年 月 日	電話 ( )